

八幡平市教育委員会会議録

令和4年8月24日（水）

八幡平市教育委員会

令和4年8月八幡平市教育委員会定例会会議録

1 開催日時

令和4年8月24日（水）午後1時30分から午後2時33分まで

2 場所

八幡平市役所3階大会議室

3 出席者

教育長 星 俊也
委員 伊藤 政行
委員 羽沢 憲英
委員 宮野 朋士
委員 松田 育恵

4 欠席者

なし

5 説明等のため出席した職員

- (1) 説明員 教育総務課長兼学校給食センター所長兼図書館長 遠藤 幸宏
教育指導課長兼教育研究所長 柏 英保
- (2) 事務局 教育総務課長補佐兼総務係長
兼学校給食センター副所長兼図書館副館長 渡辺 修

6 傍聴者

なし

7 議事

- (1) 報告第1号 令和3年度八幡平市教育委員会の主要な施策への取組結果について
- (2) 報告第2号 議会の議決を経るべき議案について（令和4年度八幡平市一般会計補正予算第4号）

8 会議の概要

【開会】

○星教育長

ただいまから令和4年8月八幡平市教育委員会定例会を開催いたします。

【教育長あいさつ】

○星教育長

それでは初めに私の方から、挨拶を兼ねまして教育長報告ということでお話をさせていただきます。

(資料に基づき報告)

○星教育長

以上、私の方から報告と計画についてお話をさせていただきました。それでは次第3報告事項、各課からの報告をお願いします。

【報告事項】

○遠藤教育総務課長

私の方からは、市議会の第3回定例会についてです。

(報告)

○柏教育指導課長

私の方からは、夏季休業中の事業につきまして二つご報告いたします。一つ目は、教育研究所公開講座です。2点目はALTの企画しましたイングリッシュキャンプについてです。

(報告)

○星教育長

これまでの報告に何かお聞きになりたいことがありましたらお願いいたします。

(委員から「ありません」の声)

【付議する事件】

○星教育長

それでは進めさせていただきます。次第の4、付議する事件に入ります。報告第1号「令和3年度八幡平市教育委員会の主要な施策への取組結果について」教育総務課長から説明をお願いいたします。

○遠藤教育総務課長

(資料に基づき報告)

○星教育長

報告第1号について説明がありました。ただいまの説明に関しまして、質問等ございましたら、ご発言ください。

○宮野委員

これは報告であって、内容に関して私たちが何も知らなくてもいいという意味ですね。報告書を作りました、これを議会に出しますと。中身を読めないような時間で何を言わせ

たいのか。文章を作ったのであれば、それを読んで、理解する時間を設けなければならないでしょう。何でこんなことをやっているのか。

○星教育長

これはですね、基本的にはですね、年度の初めには、教育委員さん方に、今年度の重点ということでお話しして参ったものであります。昨年度、令和3年度を振り返って、今度議会に報告するということですね。その議会の報告の中身をこうしてお示ししているということで、委員の皆様方にはすでに様々な機会に、ご報告しているものをまとめたものがこれだということでもありますので。

○宮野委員

いやまとめたものを、初めて見る訳でしょ。私たちは。違うんですか。

○星教育長

報告書としては。

○宮野委員

教育長は目をとおしてしていらっしゃいます。

○星教育長

もちろんです。

○宮野委員

私達も目をとおさないで、はい分かりましたっていう訳いかないでしょう。今日じゃないですか、これ。

○宮野委員

委員は中身を理解しなくてもいいからまず報告だけをしておくっていうことであればそれでいいんでしょうけども、そういうことじゃないんじゃないの。

○星教育長

先ほど遠藤課長から、今年度新たに付け加わった部分については、1項目ずつ取り上げて説明をさせていただきました。それ以外の部分については、大変失礼ですが、教育委員さん方はすでにご承知おきいただいている部分ということでですね。こちらで解釈して、説明を省略させていただいたものですが、もしやはりそこもこの際もう一度確認したいので、説明を願いたいということであれば、お時間をいただいて説明したいと思いますが、いかがでしょうか。

○宮野委員

以前にもお話ししたとおりだけでも、事前配布をするような準備をしないで、会議を招集

するっていうのは間違いです。これはいけません。前から話をしてるっていうけども、報告書自体を作ったのは、今ですよ。私たちが見るの初めてでしょう、報告書として見る。違うんですか。

○星教育長

そのとおりです。

○宮野委員

それをつけ足しはここですってそうじゃない。作った文章ってのは最初から最後まで読んで、個々人が理解できるかどうかで分からないところを質問しなきゃいけないじゃないですか。

○星教育長

分かりました。そのとおりだと思いますので。それでは、この文面については、私が議会で議員さん方にお話することにしておりますので、私の方から読み上げさせていただきますので。

○宮野委員

前々から事前配布をしなければならない資料っていうのはあるんだから。それは事前に配布して、委員が理解した上で、定例会を招集しなきゃ駄目だって言ってるんだから、それをやってくださいって言ってんですよ。

○宮野委員

言われたから、じゃあ説明しますよって、そういうことじゃない。定例会があってもなくてもいいんだってそれでもいいけど。そうではないんだから、準備をしなければならないことはきちんと準備をする。そこを指導するのはやっぱり教育長。教育長だと思うんですよ。違いますか。

○星教育長

はい。そのとおりです。大変申し訳ありませんでした。次回からは、こういった報告に関わっては、事前に、これまでも様々、適正配置であるとかですね。事前に欲しいと言われたものにつきまして、お届けしてたものなども当然あるわけですけども、今後もそのようにさせていただきたいと思います。

○星教育長

それでは今日の取り扱いについてはいかがいたしましょう。私の方から読み上げることは、全く差し障りありませんが、お時間をいただけますでしょうか。

○宮野委員

いや、結構ですけども、読ませていただいて、何か質問、疑義があれば、後程委員会の

方に電話を差し上げて、お聞きするというので、構いません。

○星教育長

他の委員さん方もよろしいでしょうか。

(委員から「はい」の声)

○星教育長

それでは大変失礼いたしました。何かありましたら、課長等の方にですね、ご連絡いただければと思います。なおこの報告の扱いについて、あるいはその他の文章について、可能な限り事前配布ということをして今後させていただきたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

○星教育長

それでは、この第1号については、質疑その他ございませんでしょうか。他に質問があったらばお願いいたします。

(委員から「ありません」の声)

○星教育長

はい、それでは質疑を終結いたします。報告第1号「令和3年度八幡平市教育委員会の主要な施策への取組結果について」の報告を終わります。

○星教育長

報告第2号「議会の議決を経るべき議案について（令和4年度八幡平市一般会計補正予算第4号）」教育総務課長から説明をお願いします。

○遠藤教育総務課長

(資料に基づき報告)

○星教育長

それでは、ただいまの説明に関して質問等ありましたらお願いいたします。

○宮野委員

ハロウ校の児童は1人ですか。

○柏教育指導課長

ハロウ校の先生のお子さんは、今のところ3人。3人で全員小学生です。国籍が3人のうち2人が外国籍でお父さんがハロウの先生でこっちに来る、家族一緒に来る、外国から直接来る、という子が2人います。

○宮野委員

兄弟じゃない。

○柏教育指導課長

兄弟です。ひと家庭に2人。あと一人いるんですが、もう1人はすでに日本に住んでいて、川崎の方に住んでいて、2年程ですね、お父さんより先に日本に来ていて、川崎の学校に通っていた子が転校してくる。この子は日本国籍も持っている子で。この子に関しては、日本語は日常会話は普通にできる。最初の2人は全く日本語ができない。という状況で来日する。

○伊藤委員

少ないといえばあれですけども、今のところ3名だけなのですね。

○柏教育指導課長

今のところですね。来年度生徒数が増えるとなれば、教員数も増えることになるからそれに伴って増える可能性もあるのかなと思います。

○宮野委員

職員の構成がちょっと分からないので、ご夫婦でという職員の方もいらっしゃる。

○柏教育指導課長

そこははっきりとハロウから情報提供はないのですが、聞いている範囲ではご夫婦でスタッフということは、ケースは聞いていないですね。お父さんが先生でっていうのはありますけれども。

○宮野委員

いわゆる家族で、ということですね。

○柏教育指導課長

そうですね。家族でこっちに来ると。

○宮野委員

学校生徒の、生徒児童の年毎の予想がありますよね。あれ、やっているのであればハロウスクールの今後の職員の動向とかをある程度把握して、受け入れのことに関しても、準備せざるを得ないんじゃない。

○星教育長

将来のことは何もわかりません。情報も、今回の8月29日開校時の生徒について、ようやく2週間ほど前にですね、詳細が来たというぐらいですので。これから先、2年先3

年先にどうなるかというようなことは、その時の状況に応じてということですから、まだ何もわからない状況ですね。

○柏教育指導課長

今、皆さんおっしゃったように、子供が増えて先生が増えればそれに伴って、そのお子さんが来る可能性もあるので、確定ではないですが、そういったことも見据えながら。学校ではですね、日本語の指導の準備を今年から進めたりとか、そういったような感じで、今年から始めているということですね。

○宮野委員

ゆくゆくは1万人のまちをつくってという構想がまず新聞にも出ているなんだから、それに伴って、児童生徒の受け入れもおそらく増えるでしょうし、その辺のこともろみってというのは、やはりある程度もう、開発する方の考えとして、アウトラインだけでも示してもらわないと、その都度こちらの方が、後追い後追いでやってくることだから、ないのかなっていう危惧がありますけど。片方では地域貢献をすごく期待してるんだけど、向こうから、発出する情報は余りにも少ないってというのは、さてどうだろうか。その辺もやっぱり、時期をとらえて、連携していくように、お願いしたいと思います。

○伊藤委員

そうしますとやっぱり、お子さんたちが家族で、こちらに一緒に来て住むようになれば、英語だけではなく、いろんな国の言葉、そうしますと、この八幡平市の小学校だり中学校だりで、やっぱりそういうに対応するような職員も必要になるっていうんですかね。

○星教育長

その辺の対応について、柏課長から。

○柏教育指導課長

八幡平市の中だけで言えば、はっきり言って、そこまでの線で、先行事例がないっていうのが実態で、ただ、今日本全国でですね、いわゆる外国籍の、しかもいろいろな言語環境の子供たちがどんどん入ってきている。そしてその子供たちが、いわゆる通常の、市町村立の学校に通っている。それがどんどん増えているっていう状況が国全体で見ればあります。なので、文部科学省も、そのあたりの支援策として、様々な、いろんな言語でのそういった就学に関わる部分のその案内等を作成していたり、各市町村でそれをすぐ活用できるような支援をしていたりということも、あります。それから、近隣で言いますと、盛岡の上田小学校にですね、岩大の関係のお子さんたちが結構来てるようで、それこそなんだろうね、留学生ですか、岩大に留学している。留学生というと何となく若い人を想定するんですか、そうでもないらしくてですね、要はその結婚されていて、お子さんもいて、そしてキャリアアップで来ている方も結構いるらしいです。そして、住居が上田小学校学区なので上田小学校に通っている子供たちが。市教委としても、そういった線、上田の小学校のような、先進的な部分のところから、学びたいと思ってですね。今年松野小学校の

先生方、それから委員会も一緒に行って、指導の様子を見させていただいたり、具体的なアドバイスをいただいたり、こういったものがあるといいよと、こういったもの、ことに気をつけたほうがいいよっていう、具体的な話を、アドバイスをいただいて、予算化できる部分は、今回、予算に入れてもらったっていう経緯がございます。ちなみに、今上田小学校通っている外国籍の子は英語圏の子でないということです。それから、今伊藤委員さんおっしゃったように、専門的な職員っていった部分については、国の方で加配ってというのはあるんです。ただ、さっき言ったように日本全部ものすごく増えているので、必ず全部つくというわけではないんですけれども、そういったような人的な支援も、エントリーも今後検討していく必要はあろうかと思っています。いずれその例えば、今年3人だから来年も3人来て、でその次も3人来てっていうふうに見通しが分かれば、手を打ちやすいですけど、もしかしたら来年ゼロかもしれないし、再来年10かもしれないし、全く読めないってところがですね。正直厳しいところですね。

○伊藤委員

決まったらでしょうけれども、ウクライナ情勢とかね、向こうから日本にもかなりの避難者というか、子供たちも来ているようでして、岩手県内であれば洋野町なんかでね、お子さんが来て、洋野町内の小学校に入学してるんですけどもね、やっぱりああゆう情勢になれば、そのお子さんが英語圏でなければ、やっぱりウクライナ語っていかそっちの言葉、分かる先生、指導者がいないとやっていけないわけですよ。やっぱり国の方で支援するっていうのは、ああいう状態であればでしょうけれども、普通にここに、そういう学校が出てきました。そこに、英語圏以外のお子さんが、今度八幡平市内の小学校に入学しますよって言った場合、本当に対応の、先ほど柏先生言ったように、来年再来年、見通し目線でわからないっちゃうこと。ちょっと大変ですよ。実際のところ。

○星教育長

A L Tの対応とかについて、ちょっと。

○柏教育指導課長

それで、今年度につきましては、英語圏の子であるということがはっきりしていたので、A L Tに週1回か2回ぐらいずつ各学校回ってもらってるんですけど、当面は松野小学校にちょっとしばらく、常駐するような形での対応で、とにかくその来た子たちがスムーズに日本の学校になれてもらえるように、それから、学校としても、その子との意思疎通を、また保護者の方との意思疎通をし易くなるように、A L Tの力もちょっと借りながら、それから、ずーっとA L Tをそこについていうわけにも、他の学校もあるので難しいので、新たに英語を堪能な支援員さんにも、ちょっとこう、お手伝いいただきながら、というような形での対応を今計画して、2学期から実施していたところです。

○宮野委員

教科書は日本語なの。

○柏教育指導課長

教科書は日本語の教科書です。配布する教科書です。

○宮野委員

いわゆるアジアで何校目でしたっけ、安比は。

○星教育長

アジア 11 校目ですが、日本では初めてです。

○宮野委員

おそらくほかの 10 校よりも、英語力においては、研鑽もしてるでしょうから、この環境は。アジアの国々は英語はもう必須ですもんね。日本ぐらいだ。話せないの。そんな中でそうやって、やっていかなきゃない。

○柏教育指導課長

そういった中でやってかなきゃいけなくて、特に小学校の場合はですね、私も小学校だからなんですけど、英語の学習が入ってきて最近なんですよね。中学校は必ず前の先生がいるので、極端に言えば、その方を通して、校内でのコミュニケーションを図りやすいでしょうけれども、校内で日常的な会話を普通にできる小学校の、普通の先生が何人ぐらいいるかっていうと、そもそもそういう教員養成、英語を専門に勉強してきた小学校の先生もいますけれども、数的にはそんな多くない。今一緒に勉強してるっていう形ですかね。実際は。はい。

○柏教育指導課長

では、先ほど伊藤委員さんおっしゃったように例えばウクライナのケースをお話しましたが、おそらく、校内でそういった子供たちへの対応を、賄いきれるということはまず無理だと思うので、そうなれば、結局地域の方のお力を借りながらっていうことになるのではないかなっていうふうには思います。英語であれば何となくでも、もしかしたら一つできるかもしれません。全く違う言語となったときに、やっぱり大きな壁が正直に出てくるでしょうから、という風に考えています。

○伊藤委員

洋野町のウクライナのお子さんはたまたま、おじいちゃんが日本の方でしたっけね。第二次世界大戦の当時、向こうに行って、帰らないで向こうに住んでるっていう状態の方でしたっけ。

○宮野委員

さっき報告書の中身、今お話ししてて、2 ページの、具体的には、教育研究所の教育重点部会を設定し小中学校の外国語活動、外国語及び義務化、前にも似たような質問をしたんだけど、例えば、アジア圏の、ハングルだったり、中国語、他も勉強するっていう

ことではないよね。外国語活動と外国語とかいうのは何を指してるの。

○柏教育指導課長

基本的には英語です。文部科学省の学習指導要領でそう表記してあるんです。実際は英語の勉強なんですけれども。

○宮野委員

これ、こういうふうに載せなきゃねえの議会に出すのも、絶対議会の人達も思うよね。

○柏教育指導課長

その法的な部分のものを根拠にすると。外国語、外国語活動というようなものになっていて、実際は中身はテキストも指導内容も、基本的には実質的には英語です。

○星教育長

ごくまれになんですが、外国語活動、国際理解教育ということですね、英語圏だけではない、中国語であるとか様々な、国の言葉を扱うことが時々あるものですから、もちろん世界を何百国という国がありますのでね。そういった国際交流と国際理解というふうなことを含めたときには、その表現っていうのが生きてくるんだろうなというふうに思います。

○宮野委員

慣用句としてとらえるということなんだろうけども、いわゆるハロウの関係においては、中国籍であったり韓国籍の職員、教員がいたとしても、基本英語だよ。その人達も。

○柏教育指導課長

はい、英語です。

○宮野委員

おそらく子供たちもバイリンガル。

○柏教育指導課長

子供たちも校内すべて英語なので、英語力のない方は入学させないということでそうです。例えば、今教育長おっしゃったように、例えばですね、小学校で外国語活動っていうのを勉強するときに、英語のことだけ勉強してるわけではなくて、いろんな外国の様子も勉強したり、例えば、こんにちは何々語では何という、一緒に言ってみようとか、何語では何というというような部分も、中身としては入って、ちょっとですけど。はい。入ってる。だから、メインは英語なんですけど、そういった意味で、外国語活動っていうのは、そう捉えていただければと思います。

○星教育長

その他、ご質問よろしいでしょうか。

(委員から「はい」の声)

○星教育長

それでは、報告第2号「議会の議決を経るべき議案について（令和4年度八幡平市一般会計補正予算第4号）」の報告を終わります。

【その他】

○星教育長

5その他に入ります。事務局から何かありますか。

○事務局

ございません。

○星教育長

それでは、委員の皆さんから何かございますか。

○宮野委員

以前に釜石環状列石の話があったと思うんですけども、この夏ちょっと、子供たちを、今縄文、縄文と言っているの、まあ子供とういのは孫なんだけど、孫の準備をと思って、釜石環状列石見ところと思っていったら、あんまり今の悲惨の状況で、今こうやって世界遺産登録って言うときにあの扱いはひどいな。看板、埋もれた看板。しかも、松尾村教育委員会で作った看板かな。すごいお金かけた看板なんだけども、その看板が何を指してるか分からない藪の中であって、もしかするとそれそのまま上っていけば、行きどまりの道行くことになったり、あれだけ看板ない方が良くない、もしくはあの看板に、現状復帰っていうの、取って、その後、もう元に戻したっていうことのようにだけでもそれが今、持ち主がもう畑もやなくなっちゃって、荒れ放題に荒れてる。あれはもう教育委員会としても、観光の面からしても、非常に恥ずかしいものだと思って見てきました。看板を撤去するか、看板に添え書きをしてこうこういう経緯で、藪の中に眠っているでもいいだろうけども、駐車場もないところに看板があって道路に停めて、よっぽど大事にしてないっていうのがよく分かるな。上の桜公園の奥にレプリカがあるんだけども、あれもレプリカだっというのが分かりづらい。何で看板500メートルも離れたところに看板が立ってんだろかなみたい。時期が時期なので、やっぱりそうやって、縄文の遺跡を探して歩く人たちもいる訳ですから、そういう人達に対して非常に恥ずかしいものだと思って見てきました。是非ともそんなに、お金かかることではないと思うので、早急に、あれは、手直ししなきゃいけないと思います。教育長はご覧になったことあります、看板。

○星教育長

そちらはありません。

○宮野委員

ないですか。今ちょうど木が生い茂る時期なので、見えないような状態にはなっただけです。行って見ていただければ、これはひどいなってお分かりいただけると思います。ぜひとも急いで対策やってください。

○星教育長

文化スポーツ課の方に至急情報提供いたしますし、実は先ほど報告した社会教育委員会議の中でもですね、例えば安代地区、博物館前に、漆塗りの室をですね、移築しましたけれども、その建物が何なのか説明板がないと。やっぱりせっかく移築したんだったら、来た人がこれ何なのか、ああそうか昔こういうところで漆塗りの作業したんだなというような、分かるような説明板を付けないかというふうに私も申し上げてきたんですが、などなど、不備な部分は多くありますのでね、今の宮野委員さんのご意見も含めてですね、担当課の方にお伝えしておきたいと思います。

○星教育長

他にありましたらお願いいたします。

【閉会】

○星教育長

それでは、ないようですので、以上で本日の日程はすべて終了いたしました。それではこれをもちまして、令和4年8月八幡平市教育委員会定例会を終わります。お疲れ様でした。